



# 川岸学園NEWS

～異年齢の子ども達がつながる新たな環境づくりをめざして～ 第21号

## 川岸学園整備事業「第三期工事」の事業費について

1月26日(月)の市議会全員協議会において、川岸学園整備事業「第3期工事(認定こども園及び外構工事)」の事業費の報告をいたしました。令和8年度に工事の契約を予定しているため、物価高騰や人件費(労務単価)の上昇を見込んだものであり、11月時点の事業費12億1,900万円から14億1,770万円へ、1億9,870万円の増となりました。

それに伴い、川岸学園に関する総事業費も49億5,780万円から51億2,150万円となる見通しとなりました。財源については、国・県の補助金が約16億5,000万円、市債(借り入れ)が約32億5,000万円となり、事業全体に占める一般財源は約2億1,000万円程度と見込んでいます。事業費は増えていますが、国からの補助金等の財源確保に努め、将来的に国から交付税として戻ってくる有利な市債を活用し、市の実質的な負担を抑えながら進めていますので、今後の事業実施には影響ありません。

「川岸学園NEWS 第20号」でもお知らせしたとおり、新しい園舎や自然学習広場には、川岸らしさや岡谷の特色を随所にちりばめ、子どもたちが豊かな自然に包まれ、のびのびと健やかに成長できる環境づくりを着実に進めてまいりますので、引き続き、皆様のあたたかいご理解とご協力をお願いいたします。

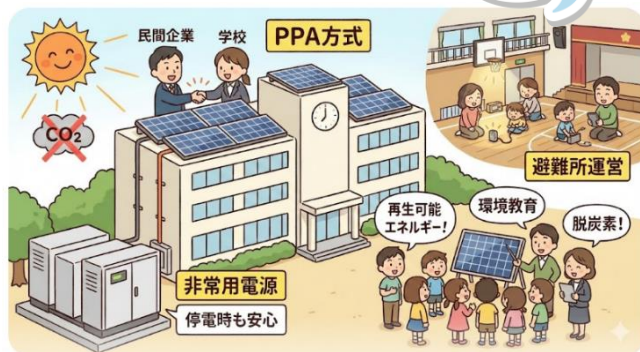
工事区分	実施設計終了時 (R7.11月時点)	R8.1月時点	増減
第一期工事(仮設校舎・解体工事)	466,400千円	466,400千円	* 契約済の実績額
第二期工事(長寿命化・接続棟)	2,833,200千円	2,828,815千円	△4,385千円 * 契約済の実績額
第三期工事(こども園・園校の外構工事)	1,219,000千円	1,417,700千円	198,700千円
その他(委託料・備品購入費等)	439,200千円	408,585千円	△30,615千円
総事業費【合計】	4,957,800千円	5,121,500千円	163,700千円

## PPAによる再生可能エネルギーの導入について

岡谷市は「2050年ゼロカーボンシティ」の実現に向け、再生可能エネルギーの導入を推進しています。その新たな取り組みとして、市内で初めて、民間活力を活用した「PPA方式」による太陽光発電設備を「川岸学園」に導入します。設置スケジュールは、令和8年度に「現・岡谷西部中学校」、令和9年度に「認定こども園」と「現・川岸小学校」を予定しています。

この事業では蓄電池も整備し、災害時の防災力を強化することで、停電時でも照明やスマートフォンの充電などが可能となり、避難所としての機能を維持します。

「川岸学園」をモデルケースとして、脱炭素社会の推進、防災体制の拡充、さらには環境学習の場としての活用など、多角的な効果を期待しています。

環境課からの  
お知らせ！

# 仮設校舎での新しい学校運営が始まりました！

## ～子どもたちの現在（いま）を校長先生に聞きました～

川岸学園の完成に向けた準備が着々と進んでいます。昨年12月に仮設校舎が完成し、1月13日（火）から、いよいよ新しい環境での学校生活が始まりました。

また、6年生は将来の義務教育学校への移行を見据え、一足早く岡谷西部中学校の教室へ活動の場を移しています。学習環境が大きく変わるといって、子どもたちにとっても先生方にとっても「新しい挑戦」の毎日ですが、実際の現場ではどのような環境で子どもたちはどう思っているのか、その現在の様子について、両校の校長先生からメッセージをいただきましたのでご紹介します。

### 川岸小学校 濱 敦志 校長先生より

「わたしたちは、これまでの川岸小学校の校舎でも、仮設校舎でも、そして新しくなる川岸学園の校舎でも生活できるんだよね。それってすごいよね。」

ある学年で、子どもたちがこのように話していたそうです。

いよいよ仮設校舎での生活が始まりました。

6年生は岡谷西部中学校1年生の教室の隣、2階で学校生活を送ることとなり、一足早く「中学校生活」を体験しています。少しの緊張感を味わいつつ、進学をより身近なものに感じられるようになったのではないのでしょうか。

仮設校舎では、隣や上の教室の音が気になったり、教室が手狭に感じられたり、体育館や校庭での遊びに制限があったりと、不便な面もあります。それでも、子どもたちは新しい環境を前向きに受け止め、楽しみながら学校生活を送っています。

音が気になるとときには、皆が気持ちよく過ごすにはどうしたらいいか考え、遊びの場所が限られる中でも教室で楽しめる遊びを工夫するなど、子どもたちは自分たちの力で生活をよりよいものにしようとしています。

私たち教職員も、仮設校舎での学校生活を前向きに捉え、子どもたちが「自ら」主体的に考え、「自ら」行動する姿を大切に育てていきたいと考えています。



### 岡谷西部中学校 永田 稔憲 校長先生より

令和8年1月13日、小学生と中学生の共同生活が、いよいよ始まりました。

これまで多くの皆様に支えていただき、この日を迎えることができたことに、心より感謝申し上げます。

様々な思いをもって迎えたこの日。ある生徒は、生活記録に「6年生と会うのがとても楽しみです。…相手の行動や自分の気持ちを考えながら、これからの関わり方を大切にしていきたいと思いました。」と綴っていました。

新たな生活への期待とともに、自分自身の成長を見つめる、素敵な言葉でした。

当日の朝、生徒玄関前には、期待に胸をふくらませた小学生と、少し緊張した面持ちの中学生の姿がありました。自然と交わされる「おはようございます」のあいさつ。その一言一言が、環境の変化への緊張をやさしくほどこき、新しい日常への一歩を後押ししているようでした。

生徒玄関が開くと、1年生から5年生は仮設校舎へ、6年生は本校舎2階の教室へ、そして中学生はそれぞれの教室へと向かいました。

こうして、川岸の子どもたちの新たな学校生活が始まりました。同じ敷地で生活を共にする中で、子どもたちは互いに学び合い、支え合いながら、心も体も大きく成長していくことでしょう。

これから子どもたちの歩みを、地域・保護者の皆様とともに温かく見守っていききたいと願っています。

